

古建築に用いられた木の種類と使用位置について

——中世から近世への変化を中心として——

伊 原 恵 司

はじめに

日本の建築はそのほとんどが木造建築であることはいうまでもない。温暖多湿の気候風土が良質の木材を豊富に産出したことも木造建築が発展した大きな要因であろう。

日本書紀や万葉集にも建築の用材についての記述が多くみられ、現存する法隆寺金堂、五重塔をはじめ各所で発見された古代の建築部材からも判るように当時の用材の主流はヒノキであった。建築用材として木材に要求される構造材としての強度、化粧材としての仕上げの美しさ、そして用材としての加工性の条件を均等に満足させた性質が評価されたためであろうことは容易に想像できる。

ヒノキ以外の材料も古代から用いられ飛鳥時代の建立である山田寺の発掘ではクスの柱が発見され、8世紀の薬師寺東塔、当麻寺西塔ではケヤキが強度の必要な部分に用いられている。しかし主流はヒノキで他の材は補助的に使用された。

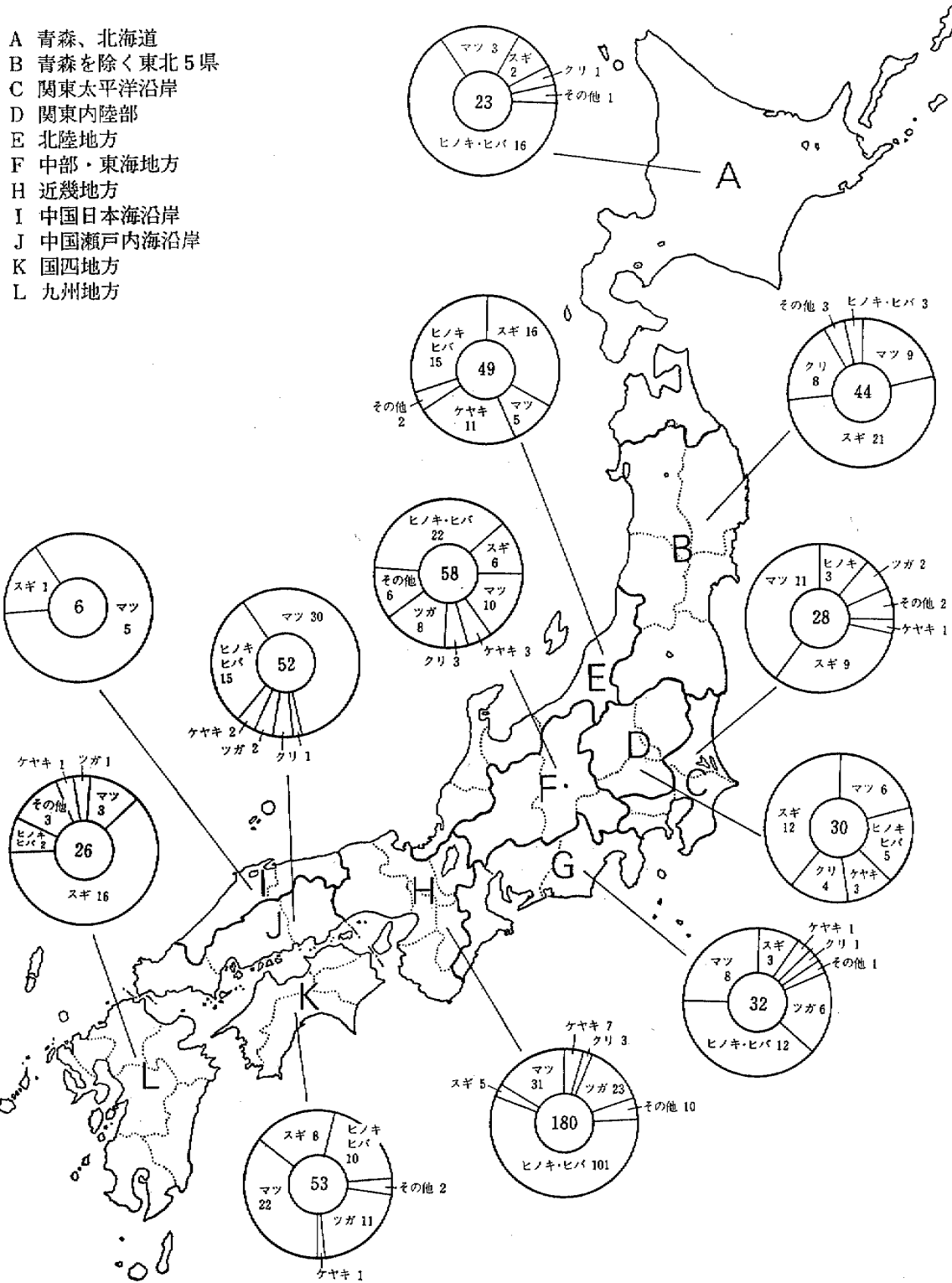
マツ、ケヤキ等が主要材料として使用され始めたのは12世紀ごろと考えられる。その背景としては中世初頭の社寺造営の盛行と資源の不足であろう。鎌倉幕府の絶対的な庇護のもとに行われた東大寺の復興に際して用材を遠く周防等に購めた事実はその事情を象徴している。一方で強度に優れた異種の材を併用して構造的な強度の増大を図る技術はこの時期に伝来した大陸の貫構造の建築技術と工具の発達が大きく影響したと考えられる。複数の材種の組合せから近世には「ヒノキの時代」からケヤキ・マツ普請の建築が一つのスタイルとしてもてはやされた。

遺構に見る材種とその傾向

図1及び表1, 5は中世以降の文化財建造物の使用材種を地域別、建物種別に整理したものである。以下この表から窺われる用材使用の傾向を考察してみたい。

表-1 建物別材種一覧

区分	材種								計
	ヒノキ・バ	スギ	マツ・カラマツ	ケヤキ	クリ	ツガ	その他		
社 寺	150	30	39	24		15	27	284	
農 家	16	40	64	5	21	20	3	169	
町 屋	12	6	20	1		6		45	
書院方丈等	20	4	7			7		39	
洋 風		18	2				1	21	
城 郭	6	1	11			5		23	
計	204	99	143	30	21	53	31	581	



図一 地域別主要材料別棟数

(材種略記号)

- ヒノキ……………J
- スギ……………T
- マツ……………P
- ケヤキ……………Z
- クリ……………F
- ツガ……………H
- その他……………E

(学名)

- Chamaecyparis obtusa Endl
- Cryptomeria japonica D. Don
- Pinus densiflora Sieb.
- Zelkova serrata Makino
- Castanea crenata Sieh
- Tsuha sieboldii Carr

- クス Cinnamomum camphora Sieb
- モミ Abies firma Sieb
- ナラ Q. crispula Blume

数量的にはヒノキ、ヒバ、マキ等のいわゆるヒノキ系が最も多く各時代にわたって平均的に分布している。地域的な傾向としては長い伝統を持つ近畿地区とヒノキの産地である中部・東海地方、ヒバの主産地である青森に集中している。建物種別としては社寺建築が主で特に小規模な神社建築が最も多い。材質としては必ずしも良材でなくともヒノキを使用している例が多いのは「書紀」にもある「檜ハ瑞宮ニ」とした伝統が強かったのであろう。

また、方丈建築26棟の内17世紀前半の16棟がヒノキ、後半以降の建築がマツ、ツガと変化しているのは興味深い。

マツ普請は長福寺三重塔（岡山・1285）、太山寺仁王門（兵庫・14世紀初）、九品寺楼門（京都・14世紀末）等を古い例として20棟余りを数えるが地域的には中国山地の周辺と関東・東北の内陸部に集中的にみられる。中国地方は現在でも良質なマツの産地として知られているがその歴史はかなり古いということが出来る。

スギを主体とした建築も地域的な特徴がある。全部材をスギで構成した建築は社寺建築では蓮華峰寺（新潟）の諸堂、魚沼神社阿弥陀堂（新潟・1563）、大塩八幡宮（福井・15世紀中）、藤津比古神社本殿（石川・16世紀中）など北陸地方に集中する。とくに蓮華峰寺は骨堂（1338）、金堂（1420頃）、弘法堂（1609）と各時代の建築がすべてスギを用いている。新潟県の阿賀野川、北陸の黒部、庄川流域の豊富なスギがあったためであろう。

スギを用いた建築に洋風建築がある。表一5にあげた遺構例23棟の内豊平館（北海道・1880）等北海道の1、2例を除いて地域に関係なくスギ材で構成されている。洋風建築は多くの場合木部は漆喰壁等で隠れてしまうため構成材は挽材がそのまま使用され、工期の制約等もあって既製の製材品としては最も多かったスギが充てられたということであろうか。この中で「白い異人館」として知られる神戸のシャープ住宅では主要部はスギを用いているが、一階の床板、化粧裏板、差物、桁等の軸部にマツが使用されている。この建物は他の洋風建築と異なって木造主体の住宅であり、細部の納まりにも和風の手法が窺われることから材の選択に当たっても和風の伝統が採択されたとみられる。

近世の木造建築の特徴は「ケヤキ」普請で近世社寺の代表的な建築である瑞竜寺伽藍（富山）新勝寺伽藍（千葉）、妙心寺仏殿（京都・1830）等を始め18世紀以降の社寺に例が多い。使用位置を見ると軸部、出入口構え、組物、彫刻等比較的人目に触れ易いところである。ケヤキの持つ強度もさることながら特有の木目を意匠的に重視したことが窺える。

〇〇普請とよばれる中でツガを主としたものでは後述する静岡浅間神社社殿等のほか近畿地方を中心とした民家とくに町家に例が多くみられる。使用位置としては正面、床上部分、座敷廻りの造作材等で、やはり意匠や部屋の格を意識した材の選択意図が窺われる。床上部や座敷廻りの材をヒノキツガ等を用い、土間部分の材種と区分している例は大型農家等にも良く見られる。

強度を必要とする箇所にはケヤキ、カンなどの堅木を用いるのは先に述べたように古代から盛んに行われた方法で、中世以降も一般的にみられる。使用位置についても古代とそれほど差がなく隅柱、組物、虹梁等が主となる。民家建築でも大黒柱、差物、框等にケヤキが、敷居には消耗しにくいサクラ、マツが盛んに使用されている。

ヒノキ、マツ、スギといった標準的な用材以外の材も中世以降はかなり多い。これらの材はその土地で生育したものとみられ、地域的におよそつぎのように整理することが出来る。

- (1) ク ス 和歌山・岡山・広島・高知・佐賀等の瀬戸内海を取り巻く地域と千葉・神奈川・静岡・愛知等の太平洋岸。
- (2) マ キ 和歌山県と九州南部。

指の規模を誇る門で、使用木材の量は1,057 m³と言う。このほど解体修理が行われ用材の内容が明らかにされたがおよそ次のようなものである。

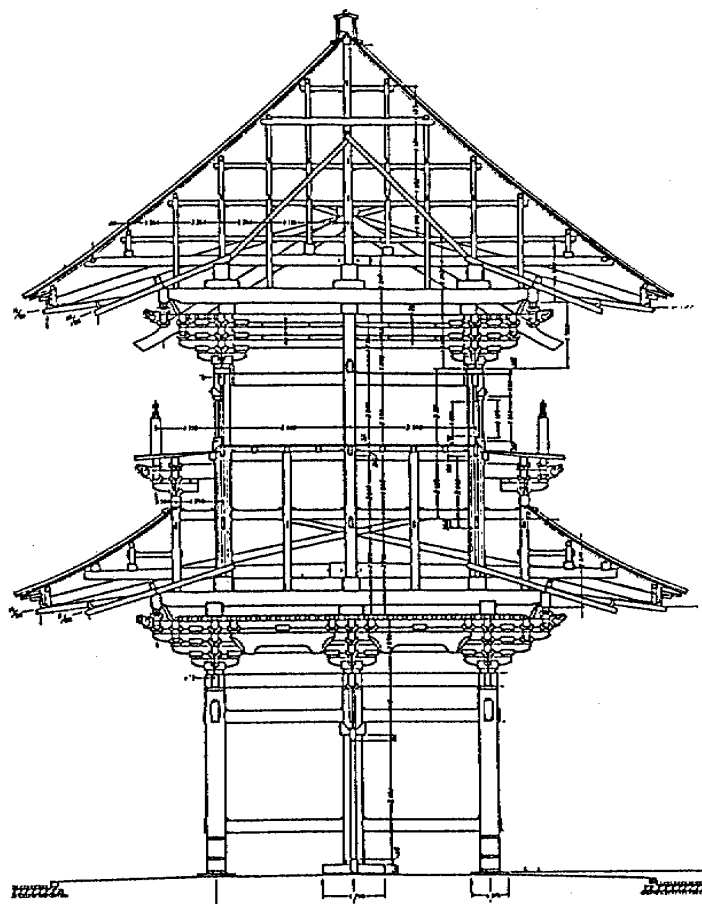
大門の用材の種類は古くから高野六木（ヒノキ・スギ・ツガ・マツ・モミ・マキ）が用いられたと伝えられていたが調査の結果マキはなくケヤキが使用されていた。この6種の材を表一

3にみられるように化粧、野物材にたくみに使い分けている。即ち、

化粧材としては ヒノキ・モミ
・スギを造作材に、トガ・マツを構造的な部材に、ケヤキは意匠と強度の両面に使い、

野物材としては マツ・モミ・ツガは大断面材として構造材に、ヒノキ・スギは屋根下地等の強度的に安全な場所に使用している。

野物材として使用するツガ、モミの使用場所は黄檗宗本山万福寺の天王殿（京都・1668）齊堂（京



図一2 金剛峯寺大門断面図（修理報告書より）

都・1668）でも共通しており、この時期における用材に対する基準的な考えを示したものといえる。

(2) 静岡浅間神社社殿

駿河国の総社として徳川幕府や多くの庶民の崇敬を集めた神社で、本殿以下20棟余が重要文化財に指定されている。現社殿は文化1年～文政3年（1804～1820）にかけて造営されたもので随所に精巧な彫刻をかざり内外を極彩色した華麗な建築である。用材については保存されている造営文書によってほぼ明らかにすることができる。表一5は主要建物の用材、使用位置を示したもので、これによれば化粧材の中心はトガで構造材はツキ（ケヤキの古名）、彫刻部材はクスと整然と区分されている。

表一4 静岡浅間神社社殿部材別使用材種一覽

部材名 建物名	化粧材														野物材																			
	柱	虹梁	長押・貫	敷具	建目板	羽斗	大斗	肘木	蓑板	琵琶板	支輪	同裏板	丸桁	化粧棟木	化粧隅木	化粧垂木	化粧裏板	破風板	縁板	縁束等	高桁	木階	床板	天井格縁	天井板	彫刻類	床下材	小屋束梁等	桔木	野垂木	野地板	瓦棒箱棟等		
本殿	神部浅間	●	●	□	□	○	□	●	▲	□	▲	▲	▲	□	□	□	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	大御					○				○							○						○	○									○	○
	麓山					○											○							○	○									○
殿	少彦名	●	□	□	□	○	○	●	▲	□	▲	○		□	□	●	□	○	●	□	□	□		□	○	▲	□	■	■	■	○	○	○	
	神部方八幡社	□	□	□	□	▲	○	▲	▲	▲	▲	○		□	□	□	○	▲	□	□	□	□	○	□	○	▲	○	■	■	○	○	○	○	
	浅間方天神社	□	□	□	□	▲	○	▲	▲	▲	▲	○		□	□	□	○	▲	□	□	□	□	○	□	○	▲	○	■	■	○	○	○	○	
	間荒神部浅間	□	□	□	□	▲	○	▲	▲	▲	▲	○		□	□	□	○	▲	□	□	□	□	○	□	○	▲	○	■	■	○	○	○	○	
拝殿	神部浅間1階	●	●	□	□	○	□	●	▲	□	□	□	□	□	□	□	●	□	□	●	□	□	□	□	□	▲	□	■	■	□	□	□	□	
	同2階																																	
	大御					○				○							○						○	○										○
殿	麓山	●	●	□	□	○	○	●	▲	□	▲	○		□	□	●	□	○	●	□	□	□	□	○	□	○	▲	□	■	■	■	○	○	○
	少彦名	□	□	□	○	○	□	□	□	□	○		□	□	□	□	○	□	□	□	□	□	○		▲	□	■	■	■	○	○	○	○	○

○ 檜 ○ 杉 ● 槻 ▲ 楠 □ 榎 ■ 松

木材の調達について

表一5にあげた用材は当初材のみを取り上げたもので後の修理で補足されたものは入っていない。当初の用材がどの地域から調達したかは記録が少なく修理の際も不明のことが多い。

宗像神社辺津宮本殿（福岡・1578）は棟札の記載から県内の三笠郡，早良郡，那珂郡，肥前松浦（長崎県）で，また屋根の葺板は島根県の益田で調達したことが知られる。巨田神社本殿宮崎・1448）は全部材がコウヤマキ，大野老松天満社（大分・1480頃）はカヤが主材であるが何れもこの地方に古くから産出したと伝えられる材である。大規模な建築を除いて多くは地元の材が使用されたことであろう。

これに対して近世の社寺造営は施工が請負になったこともあって木材の調達も広範囲になったことが知られる。京都南禅寺三門（1628）の修理報告書によると1380年代の造営材は播磨・美作・備中等の中国山地から調達し，1450年代の再建では美濃・飛騨地方を中心として不足分を四国でまかなっている。現在の建物は美材は愛媛県今治から，ツキ（ケヤキの別名）は伊賀の山中から調達していることが知られる。

ケヤキ造の妙心寺仏殿（京都・1830）は江戸の御用木材商天満屋忠兵衛，京都の松屋新兵衛の両名からツキ材を購入し，造作材は京都で，大梁等は京都仁和寺，近江等で伐採している。鹿島神宮（茨城）の元和5年の造替の材は江戸の材木商が海路を運送し，檜皮は信濃の皮を上州に出し利根川を経て搬入されたと記されていて近世では木材の調達が江戸や京の木材業者の手を通して広範囲に行われたことが知られる。

民家の建築用材についても普請帳などから調達の経緯が判明するものもある。嘉永5年（1852）建設の和田家住宅（神奈川）は柱や梁等の大材は材種，木取りの寸法を指定して原木を購入して製材させ，一般的な材はその都度周辺の村から求めている。

材料の技術的な選択は棟梁の判断によることは当然であるが、舟津神社本殿（福井・1818）は造営時の関係文書が多数あって当時の普請の経緯が詳しく知られる。請負に関わる覚書のなかに木材の検査についてはすべて棟梁の裁量に委ね不良材は直ちに処分すべきことが明記されている。当時の棟梁の見識と責任を物語るものである。

国産以外の材が用いられた例としては不動院楼門（広島・1594）の朝鮮木の刻銘のあるスギ，崇福寺護法堂（長崎・1731）の福建省から輸入されたコウヨウサン，万福寺のチーク材や日光東照宮（栃木）の唐木がよく知られている。

修理に際して最も多く使用された材はマツで全国的に見受けられ，スギ，ヒノキがこれに次ぐ。修理に際しては近在の入手し易い材が充てられたと考えられ，なかではマツが最も入手し易かったのであろう。名草神社三重塔（兵庫・1527）はもと出雲大社にあったものを1665年現在地に移築したもので，当初の材は中国地方のマツの良材である。移築に際して補足された材は「妙見杉」の名で知られる現在地のスギが当てられているのはその好例である。

む す び

以上中世から近世にかけての使用木材の変遷を概観したが，ヒノキに対する愛着が根強い一方で複数の材種の併用に当たっては古代の建築では漠然とした強度的配慮，不足材の補充といった併用であったのに対して中世以降は意匠，あるいは建物の格を強調する手段としても積極的に採用されその使用箇所も合理性を帯びてきたことが大きな特徴で，やがて近世における総ケヤキ造りの建築を生み出したといえることができる。

用材の選択にあたっては単に材種のみでなく同一の材でも個々の部材の持つクセ，即ち天然材料の持つ不均一性が利用され木表，木裏，陽表，陽裏等による収縮，応力に適合した配分が古くからおこなわれ，木造建築の耐久性を立証してきた。

保存修復技術の研究は伝統的な材料の材種の判別のみでなく使用方法の法則性の研究を平行して進めることによってより合理的な修復方法の設定が可能になると思われる。

当研究所は昭和64年度以降に於て木材をはじめ文化財を構成する伝統的材料についての総合的な研究を実施する計画である。本稿はその基礎的検討資料になればと思ひ事例の提供を主にまとめたものである。

資料の作成に際してはそのほとんどを修理報告書に頼り，報告書未刊のものは文化庁建造物課，(財)建造物保存技術協会などのご好意により実施設計書，実績報告書を拝見させていただいた。金剛峯寺大門の用材については和歌山県文化財センターのご了解をえて紹介した。静岡浅間神社の用材については建造物課村田健一氏に提供していただいたし万福寺の材料については京都府文化財保護課の奥野裕樹氏の御教示があった。そのほか多勢の修理技術者の方から資料をいただくことが出来た。記して感謝の意を表するものである。

参 考 文 献

- 1) 岡田英男「古代建築に使った木」『普請研究第8号』（1984）
- 2) 小原二郎『木の文化』鹿島出版会（1972）
- 3) 且原純夫『デザインされた木』筑摩書房（1985）
- 4) 全国銘木連合会編『銘木史』（1985）
- 5) 朝日新聞社編『木の事典』シリーズ「木の文化」（1984）
- 6) 江本義教「国宝及び重要文化財古建造物の部材」『保存科学』第15号（1976）
- 7) 各建物の修理報告書

表一5 木造古建築の材種別、部材別使用一覧

1. この表は重要文化財建造物を中心とした581棟の材種と部材の関係を整理したものである。
2. 共通の文化圏、共通の材種が使用されている地域を一つのグループと考えて地域割を行った。
3. 材種は原則として当初材についてのみ記述した。
4. 建物名称は記述の都合上省略してある。また種別についても単純化してある。
5. 年代は西暦とし、末尾の印は年代の不確定なものであるが整理の都合上近い年代を設定したものである。
6. 組合せ配列は下記の順序になっている。

組合せのタイプ 主要材種 組合せた材種 野物材

I | J | Z | P

7. 材種、組合せの頭文字は下記の省略である。

J ヒノキ・ヒバ (Japanics Syprss) F クリ (Fagaceae)
 T スギ (Toxodiaceae) H ツガ (Hemioch Spruce)
 P マツ・カラマツ (Pines) E その他 (Except)

Z ケヤキ (Zelkova)

組合せタイプ 化粧材、野物材とも同一材種であるもの。 U (Unity)
 化粧材と野物材が異なるもの。 D (Different)
 化粧材の一部に異種材を補助的に使用したもの。 A (Assistine)
 化粧材の内強度の必要な部分に堅木等を使用したもの。 I (Intency)
 複数の化粧材が併用されているもの。 C (Compatibility)

A 北海道・青森

県	建造物名	時代	組合配列	ヒノキ・ヒバ J・J	スギ T	マツ・カラマツ P・P'	ケヤキ Z	ク F	ツ H	ガ H	その他 E
青	第59銀行本館	1904	C T-P J'-	窓棹 羽目 大引 根太 土台	柱 間柱 胴差	梁 台輪 敷桁					
青	弘前宣教師館	1900	I T-P-t	造作下見 土台	柱 胴差 貫 小屋束 垂木 野地 根太	梁 大引					
北	函館公会堂	1910	I P'-J'-	土台		土台造作以外の 全部					タモ 造作
北	豊平館	1880	UE								全部材 トドマツ
青	清水寺観音堂	1591	I J'-Z-j	組物 軒廻		隅木	柱 頭貫 梁 大瓶束				

県	建造物名	別	時代	組合配列	ヒノキ・ヒバ J・J'	ス T	ギ	マツ・カラマツ P・P'	ケ ヤ キ Z	ク リ F	ツ H	ガ	そ の 他 E
青	弘前城東門	城	1611	I J'-Z-j	土台 二階柱 床 桁 隅木				梁 マ グ サ				カ ツ ラ 柱
青	南部利康霊屋	殿	1632*	I J'-Z-j	部材大半				礎盤				
青	岩木山社瑞垣	殿	1694	U J'	全部材								
青	津軽為信霊屋	殿	1650*	D J'-t	化粧材全部	野物材全部							
青	岩木山社拝殿	殿	1602	U J'	全部材								
青	岩木山社本殿	殿	1694	U J'	全部材								
青	熊野奥照本殿	殿	1613	U J'	全部材								
青	岩木山社楼門	殿	1629	U J'	全部材								
青	岩木山社奥門	殿	1694	U J'	全部材								
北	旧中村家主屋	町	1889	A J'-T-j	壁板以外全部	壁板							
北	旧中村家文庫	町	1889	U J'	全部材								
北	下ヨイチ運上	漁	1863	C P'-E-p									
北	花田家番屋	漁	1905	C P'-E-p									
青	石場家住宅	町	1710*	I J'-E-j	部材大半								
北	旧中村家下倉	町	1860*	U J'	全部材								
青	笠石家住宅	農	1770*	C F-P-p									
青	旧平山家主屋	農	1769	U J'	全部材								
青	旧平山家表門	農	1718	U J'	全部材								

B 東北5県

県	建造物名	別	時代	組合配列	ヒノキ・ヒバ J・J'	ス T	ギ	マツ・カラマツ P・P'	ケ ヤ キ Z	ク リ F	ツ H	ガ	そ の 他 E
福	天鏡閣別館	洋	1908	C T-P-p	柱 胴差 窓台 下見 床下材			桁 床板 梁 野物					
福	福島中学校	洋	1889	D T--p	化粧材全部			野物材全部					
山	山形県議事堂	洋	1916	D T--p	化粧材全部			小屋材					
福	旧伊達郡役所	洋	1883	I T-P-t	化粧材大半 野物一部			梁 敷桁 床下材					土台

県	建造物名	別	時代	組合配列	ヒノキ・ヒバ J・J'	ス T	ギ T	マツ・カラマツ P・P'	ケ Z	キ Z	ク F	リ F	ツ H	ガ H	その他 E
福	天鏡閣本館	洋	1908	I T-P J'-	土台 足固	柱 窓台 下見	胴蛇腹	床板 桁 梁	床板 桁 梁	幅木					塔屋床板 スギ・ ケヤキ・カツラ・ クマガキ
山	旧済生館本館	洋	1879	I T-P-t		土台 柱 軒廻 造作	桁 梁 小屋組 床下材	組物 梁							ブナ:部材大半 カツラ:垂木
山	西田川郡役所	洋	1881	UT	全部材	柱 貫 虹梁	組物 小屋材	全部材	組物 梁						クサマキ: 部材大半
山	正善院黄金堂	堂	1594*	CE-T-P		部材大半									カツラ:柱
山	立石寺納経堂	堂	1559	I T-Z-t		組物									
山	慈恩寺本堂	堂	1618	UP											
山	立石寺三重塔	堂	1519	A T'-T-t											
福	成法寺観音堂	堂	1510*	A J-E-j	部材大半	小梁 支外垂木	貫 虹梁 組物 斗	柱 根太							ブナ:柱
山	若松寺観音堂	堂	1611	A P-T-P	側頭貫	部材大半									
福	円満寺観音堂	堂	1579*	A T-Z-t		床板	貫 虹梁 組物 斗	柱 根太							
福	堂山王子本殿	堂	1490*	C P-F-P			貫 虹梁 組物 斗	柱 根太							
山	立石寺中堂	堂	1356*	C T-E-t		柱 飛貫 地貫 足固	貫 虹梁 組物 斗	柱 根太							
福	勝福寺観音堂	堂	1558	I P-Z-t			貫 虹梁 組物 斗	柱 根太							
福	旭田寺観音堂	堂	1388	UE			貫 虹梁 組物 斗	柱 根太							
福	熊野神社長床	殿	1280*	I T-Z-f			貫 虹梁 組物 斗	柱 根太							
岩	中村家主屋	町	1861	D J'- -P	化粧材全部大引	組物 虹梁 貫 長伸 垂木	貫 虹梁 組物 斗	柱 根太							
岩	中村家土蔵	町	1873	I J'-Z-j	部材大半		化粧材大半								
岩	佐々木家住宅	農	1770*	A P-F-P			貫 虹梁 組物 斗	柱 根太							
宮	佐藤家住宅	農	1770*	A T-F-P			貫 虹梁 組物 斗	柱 根太							
岩	藤野家住宅	農	1830*	C F-P-e			貫 虹梁 組物 斗	柱 根太							
岩	伊藤家住宅	農	1730*	C F-P-P			貫 虹梁 組物 斗	柱 根太							
岩	菅野家住宅	農	1728	C F-P T-P			貫 虹梁 組物 斗	柱 根太							

C 南 関 東

県	建造物名	別	時代	組合配列	ヒノキ・ヒバ J・J	ス T	ギ	マツ・カラマツ P・P'	ケ Z	キ	ク F	リ H	ツ H	ガ	その他 E
東	旧 奏 楽 堂	洋	1890	DT- -P		化粧材大半		野物材全部	出入口枠						
千	旧 学 習 院 正 堂	洋	1899	IT-P-P	柱 桁 長押 付縁 鼻隠	床板 大引 根太 トラス		床板 大引 根太 トラス	独立柱						シオジ・ ベイマツ:柱 シオジ: 部材大半
神	常 楽 寺 仏 殿	堂	1691	AE-P-P		部材大半		通肘木一部 小屋材							
茨	竜 禅 寺 三 仏 堂	堂	1569	AT-P-t				斗カエ ルマタ 大梁							
千	石 堂 寺 楽 師 堂	堂	1575	CE-T P-t		頭貫 貫 垂木 小屋材		桁 通肘木 軒廻							クス:柱 虹梁組物 シイ:側柱 組物
千	笠 森 寺 観 音 堂	堂	1580*	CF-T-P		軸部 軒廻 長押		軸部 組物 敷鴨居							
千	宝 珠 院 観 音 堂	堂	1569*	CT-P-P		柱 桁 垂木 茅負 裏板 組物		頭貫 台輪 組物 床板 壁板							
千	栄 福 寺 楽 師 堂	堂	1473	CT-Z-P		小屋材		梁	柱	礎盤 梁 破風					
東	正 福 寺 地 藏 堂	堂	1407	IJ-Z-P		地覆 組物 軒廻		小屋材		柱 礎盤 梁 破風					
神	天 授 院	堂	1651	IJ-Z-P		貫 桁 壁板		貫 台輪 通肘木 方立		大斗 敷鴨居 縁高					シイ:柱
千	泉 福 寺 楽 師 堂	堂	1470*	IT-Z-P		桁 敷鴨居 肘木 垂木		頭貫 台輪 床板 壁板		柱 大斗 大斗 枿肘木					
茨	薬 王 院 本 堂	堂	1529	IT-J Z-P		桁 斗 垂木 隅木 茅負		鬼斗 卷斗 梁 力垂木		柱 大斗 枿肘木					
茨	鹿 島 神 宮 本 殿	殿	1619	IT-Z-P		小屋材		梁 桔木		大斗					ツキ:向拝柱
茨	鬼 子 母 神 本 殿	殿	1619	CH-J-P		柱 貫 台輪 斗		野物材大半							
東	鬼 子 母 神 拜 殿	殿	1700	IJ-Z-P		全部材									
千	飯 岡 八 幡 本 殿	殿	1475*	UT											
茨	太 田 家 主 屋	農	1680*	AP-E-P				部材大半		カ マチ					クルミ:柱
茨	太 田 家 土 間	農	1730*	AP-E-P				部材大半							クルミ:柱
神	北 村 家 住 宅	農	1687	AP-Z-P		小屋材		部材大半		内部柱					クルミ:柱
神	伊 藤 家 住 宅	農	1710*	AP-Z-P				部材大半		柱					クルミ:柱

県	建造物名	別	時代	組合配列	ヒノキ・ヒバ J・J'	ス T	ギ T	マツ・カラマツ P・P'	ケ Z	キ Z	ク F	リ F	ツ H	ガ H	そ の 他 E
栃	二荒山大黒殿	殿	1745	C J-E T-P	柱 縁廻 裏甲	垂木 裏板 小屋束 母屋	大梁 縁繫 床束 大引 隅木	野隅木 根太							モミ:隅木 木負
栃	木幡神社楼門	殿	1510*	I T-Z F-t	部材大半	柱 敷桁 梁 小梁 出桁	隅木 梁	礎盤 鏡柱 冠木							サワラ:土台
栃	入野家表門	農	1850*	A T-Z P		柱 貫 桁 繫梁 天井	部材大半 差物 梁 敷梁 サス カマチ	柱 差物 カマチ							クスギ:足固
栃	羽石家住宅	農	1850*	C P-E T-P		柱 貫 桁 繫梁 天井	部材大半	土間柱 敷桁 梁							ホウ:柱一部 カシ:柱 梁 シオシ:柱
栃	入野家主屋	農	1836	C T-Z P-t		柱 貫 桁 繫梁 天井	部材大半	土間柱 敷桁 梁							
群	生方家住宅	町	1690*	A J'-T-j'	部材大半	柱 貫 桁 繫梁 天井	部材大半	土間柱 敷桁 梁							
群	茂木家住宅	農	1650*	A P-Z E-p		柱 貫 桁 繫梁 天井	部材大半	土間柱 敷桁 梁							
埼	新井家住宅	農	1745*	C F-T-P		貫 桁 長押 棟木 柱 貫 根太 小屋材	床板 梁 小屋束 敷鴨居 壁板 床板 梁	大黒							
埼	小野家住宅	農	1720*	C F-T P-t		貫 桁 長押 棟木 柱 貫 根太 小屋材	床板 梁 小屋束 敷鴨居 壁板 床板 梁	大黒							
群	黒沢家住宅	農	1860*	C F-P-t		板類 小屋材	梁 小屋材	化粧材大半							
栃	三森家主屋	農	1716	C F-Z P		側柱 桁 貫 一筋	桁 差物 敷鴨居 長押	柱 土台カマチ							ナラ:大引
群	阿久澤家住宅	農	1650*	C P-T-P		柱 貫	差物 床板 梁 小屋材	柱 土台 大引							
群	富澤家住宅	農	1790*	C T-F P-p		本柱 桁 貫 差物	桁 差物 梁 小屋材	柱 土台 大引							サクラ:敷居 カエデ:梁
群	戸部家住宅	農	1730*	C T-F P-p		柱 貫 敷鴨居 長押	梁 小屋材 下材	土間柱 側柱							
埼	平山家住宅	農	1730*	C T-P Z-t		軸部 鴨居 天井 母屋	差物 梁 桁 小屋材 床板	大引							
栃	三森家表門	農	1902	C Z-T-P		側柱 梁 小梁	牛梁 冠木 小屋材	隅柱 鏡柱 地覆							
栃	荒井家主屋	農	1780*	I T-F-p		柱 桁 長押 天井縁	上屋梁 小屋材	側柱 土台							
栃	荒井家表門	農	1880*	I T-P-t		柱 梁 桁 貫 小屋材	敷梁	土台							
埼	高麗家住宅	農	1660*	I T-Z-t		柱 桁 貫 梁 鴨居 壁板	繫梁 サス	土台							

県	建造物名	別	時代	組合配列	ヒノキ・ヒバ J・J'	ス T	ギ	マツ・カラマツ P・P'	ケ ヤ Z	ク リ F	ツ H	ガ	そ の 他 E
新	小比叡社本殿	殿	1640	CZ-T P-P	半長押 小壁板	肘木 長押 高欄 天井	柱 虹梁 組物 妻飾	隅柱 四天柱 斗					
新	松苧神社本殿	殿	1497	IT-Z-P	貫 肘木 桁 長押 板類	貫 肘木 桁 長押 壁板	柱 桁 肘木 垂木 茅負	柱 妻梁 組物					
新	白山神社本殿	殿	1515	IT-Z-t	垂木 間仕切	貫 長押 壁板 差母屋	柱 海老虹梁 向拝頭貫						
福	春日神社本殿	殿	1613	IT-Z-z	間仕切 妻壁	貫 長押 突肘木 桁							
福	瀧谷寺鎮守堂	殿	1540*	UJ	全部材		軸部 台輪 長押						クサマキ:組物 軒廻
福	大塩八幡拝殿	殿	1450*	UT	全部材		敷鴨居 梁 胴差						
福	藤津比古本殿	殿	1559*	UT	全部材		冠木 鏡板						ブナ:部材大半 ナラ:梁
石	小松天満神門	殿	1657	CZ-E-P		貫 床板 壁板	柱 桁 梁 垂木 敷鴨居						
新	渡辺家味噌倉	町	1787	CP-Z-P		貫 床板 壁板	柱 桁 梁 垂木 敷鴨居						
新	佐藤家住宅	農	1738	AE-P-e		柱 一部	差物 一部						
新	長谷川家表門	農	1802	AT-Z-t		土台 柱 敷鴨居 壁板	床板 梁 小屋材						
富	嶋家住宅	農	1770*	CJ'-EP-p	柱 桁 鴨居 貫	長押 鴨居 垂木 天井	梁 隅木 垂木 茅負	差物 トコカマチ	土台 カマチ 床下材				カツラ: 鴨居 天井 庇材 小屋材
富	武田家住宅	農	1790*	CJ'-P T-p	土台 柱 敷鴨居	上屋柱 桁	梁 隅木 垂木 茅負	式台 差物 カマチ	大引 床束				
新	長谷川家主屋	農	1716	CJ'-TZ-e	土台 柱 桁	座敷柱 貫 鴨居 天井	広間敷居						ナラ:上屋柱 桁 梁
富	羽馬家住宅	農	1760*	CJ-EF-f	差物 貫 桁 梁板								ブナ:貫 桁 梁 床板 羽目
福	相相家住宅	農	1740*	CP-J T-t	上屋柱 桁		桁 梁 カマチ 差物 サス		土台 足間 柱 羽目				
石	座主家住宅	農	1750*	CP-TZ-f		柱 貫 床板 鴨居 サス	柱 貫 差物 床板 敷鴨居		柱 床下材				エンジュ: 床下材
福	谷口家住宅	農	1808*	CP-TZ-p		柱 貫 釣束	桁 梁 差物 根太 サス		柱				

種別	年代	組合配列	ヒノキ・ヒバ J・J'	スギ T	マツ・カラマツ P・P'	ケヤキ Z	クワリ F	ツグ H	その他 E
福 橋本家住宅	農 1730*	CP-EZ-p							クスギ:桁 ブナ:桁
福 堀口家住宅	農 1730*	CZ-EP-p							
福 坪川家住宅	農 1690*	CZ-PT-t							
福 瓜生家住宅	農 1699	CZ-TP-p							ハンノキ:合掌
富 佐伯家住宅	農 1767*	DJ'-E-p	部材大半						
富 浮田家土蔵	農 1890	IJ'-Z-j'	部材大半						
富 浮田家主屋	農 1828	IJ'-Z-t	軸部材						
新 目黒家新蔵	農 1830*	IT-J-t	根太 束						
新 目黒家中蔵	農 1871	IT-J-t	床板 根太						
石 小倉家住宅	農 1820*	IT-Z-t							ブナ:大引 繫梁
新 足輕長屋	町 1842	AP-P-p							

F 中部地方

県	建造物名	時代	組合配列	ヒノキ・ヒバ J・J'	スギ T	マツ・カラマツ P・P'	ケヤキ Z	クワリ F	ツグ H	その他 E
長 開智学校校舎	洋 1876	UT			全部材					サワラ: 部材大半
長 国分寺三重塔	堂 1370*	IE-Z-								サワラ: 部材大半
岐 真禅院三重塔	堂 1643	IJ-Z-p		部材大半						
長 松尾寺本堂	堂 1528	AE-J-e		貫組物 垂木 茅負		心柱		側柱 縁柱		
長 盛蓮寺観音堂	堂 1470	AJ-P-p		部材大半						
長 福德寺弥陀堂	堂 1270*	AT-J-		壁板 敷鴨居 縁		隅木 縁桁 足固				サワラ:隅木 垂木
長 遠照寺釈迦堂	堂 1538	CJ-E-t		軸部 組物大半						カッラ: 柱床縁 貫
長 善光寺本堂	堂 1707	CZ-EH-h		大引				軒廻 小屋材		

県	建造物名	別	時代	組合配列	ヒノキ・ヒバ J・J'	ス T	ギ	マツ・カラマツ P・P'	ケ Z	ヤ Z	ク F	リ F	ツ H	ガ H	そ の 他 E
長	知織寺大御堂	堂	1541*	I E-Z-p				頭貫 足固 大引	柱 貫 組物						サワラ: 柱貫組物板
岐	小堂薬師堂	堂	1390*	UJ	全部材 垂木			桁 台輪	虹梁 化粧材大半				柱 二階柱		
山	恵林寺四脚門	堂	1606	CH-P Z-p				貫 肘木 縁 隅木長押					柱 敷鴨居 長押 天井		
山	善光寺山門	堂	1767	CZ-PH-p				土台 貫 桁 敷鴨居 床					柱 差物 長押		
長	進徳館教場	住	1860	AH-P-p				柱 差物 敷居 桁 垂木			土台 玄関床		柱 差物 長押		
長	進徳館生徒室	住	1860	CH-P-p											
長	小笠原家住宅	住	1620*	UJ	全部材			梁 桁 肘木 垂木 小屋材			控柱		本柱 冠木 貫		
長	進徳館表門	住	1860*	CP-H-p				梁							
長	松本城小天守	城	1600*	CH-F-p	下見 根太			柱 床板 梁 床板 根太					土台 柱 梁		モミ:柱 梁 根太
長	松本城渡櫓	城	1600*	CH-P-p	下見 根太			柱 床板 梁 床板 根太					土台 垂木 茅負		モミ:梁 茅負
長	松本城天守	城	1600*	CH-P-p	柱 根太			床板 梁 小屋材					柱 土台 梁 床		サワラ・アスナ ロ・ネズヒメヨ
長	松本城辰巳櫓	城	1600*	CJ-PE-p	柱根太桁下見茅			土台 床板 梁	鏡柱 梁				腕 木		モミ:土台
長	松本城月見櫓	城	1600*	CJ-Z-p	土台柱縁小屋材			土台 床板	柱						サワラ:垂木
長	大宮熱田八幡	殿	1550*	AE-Z-	土台										サワラ: 部材大半
岐	阿多由太本殿	殿	1520*	AE-Z-e					大斗		向拝茅負				サワラ: 部材大半
長	大宮熱田本殿	殿	1550*	AE-Z-e	土台				柱						サワラ: 部材大半
岐	熊野神社本殿	殿	1530*	AJ-E-j	柱 桁 長押 破風 垂木										サワラ: 部材大半
山	浅間西宮本殿	殿	1594	AJ-P-p	柱 貫 組物 梁 桁	縁板 板掛		貫 虹梁 木階 長押	向拝組物						サワラ: 虹梁組物板
長	真田霊屋宝殿	殿	1660	AJ-T-p	部材大半			地棟 梁 小屋材							
長	高良社本殿	殿	1491	AJ-Z-j	部材大半				柱斗虹梁大瓶束						
長	田村 堂	殿	1525*	AJ-Z-j	部材大半				礎盤 組物						

長	諏訪社本殿	殿	1601	A J-Z-j	部材大半	貫組物 軒廻	貫組物 軒廻	組物 柱 大瓶東					
長	小菅奥社本殿	殿	1550*	C P-T Z-p	床壁板 間仕切	肘木 桁 垂木 茅負	貫組物 小屋根	柱 大瓶東					
長	建御名方若宮	殿	1492*	C T-J-t	部材大半	裏板 壁板 長押	虹梁	大斗					
長	佐野神社本殿	殿	1592	I J-Z-j	部材大半	頭貫 桁 鬼板	柱 長押 羽目 間仕切	大斗					
岐	白山神社拜殿	殿	1502	I J-P-j	組物 妻飾								
長	駒形神社本殿	殿	1486*	I P-Z-t	全部材								
長	白山神社(4)	殿	1334	U J	全部材								
長	大山田心神社	殿	1506	U J	全部材								
長	若宮八幡本殿	殿	1585*	U J	全部材								
山	天神社本殿	殿	1522	U J	全部材								
長	大山田為朝社	殿	1758	U I	全部材								
長	真田靈屋表門	殿	1660	I J-Z-j	部材大半								
岐	太田林家表門	町	1831	A Z-J-t	棟木 軒廻	野物材	差物 鴨居 床板 鴨居 床板 長押 格子	柱 主要材全部 式台					
岐	太田林家座敷	町	1773	C P-H-p	床板 トコカマ 子 根太	トコ柱 天井 庇桁	差物 鴨居 床板 鴨居 床板 長押 格子	土台 大引					ネズコ:裏板
岐	太田林家居室	町	1769	C P-J-p	柱 框	一階床板 根太	大黒 貫 桁 梁 二階根太	土台 床下材					サクラ:大黒 マダサ
岐	小坂家住宅	町	1773*	C P-J-p	土台 柱	柱	貫 大引 裏板	土台 大引					
山	星野家文庫蔵	町	1853	C T-P F-p	表縁廻	柱 棟木 桁 床板	貫 大引 裏板	土台 大引					
長	真山家主屋	町	1766	I T-F P-t		柱 貫 桁 長押 天井	柱 框 差物 敷居	土台 床下材					
長	真山家土蔵	町	1766*	I T-P-p		柱 桁	棟木 サス 母屋 垂木	土台					
岐	田中家住宅	農	1730*	A P-F-p	床上柱 貫	部材大半	部材大半	土台 柱					
岐	牧村家住宅	農	1701*	C F-J-p	小屋根	差物 桁 床上柱	差物 桁 床上柱	土台 柱 梁					
山	安藤家文庫倉	農	1844	C J-T Z-p	柱	側桁	大引 根太 繫梁 貫	土台 壁板					サクラ: 差物上屋梁 カツラ: 二階床板
長	島崎家住宅	農	1720*	C P-F-p			柱 梁 大引 柱 頭繫	柱 梁 床・壁板					サワラ: 柱 桁 床下材
長	曾根原家住宅	農	1680*	C P-E-e		側柱	梁 差物 天井 床板 壁板	柱					サワラ: 表柱 貫 桁 垂

県	建造物名	別	時代	組合配列	ヒノキ・ヒバ J・J'	ス T	マツ・カラマツ P・P'	ケ ヤ Z	ク F	ソ H	その他 E
長	春原家住宅	農	1695*	C P-F-p		貫 敷鴨居 床板 梁	差物 落掛	土台 柱 敷梁			イチイ:柱 モミ:床板
山	安藤家北蔵	農	1773	I F-Z-p		梁 棟持柱	棟持柱	土台 柱 床下			
山	安藤家南蔵	農	1864	I F-Z-t	床板 壁板	梁	棟持柱	土台 柱		柱 桁 敷梁	
山	安藤家表門	農	1782	I H-F-t	貫 天井根太 天井板	冠木 胴差 上屋梁		土台		柱 垂木 マグサ	
山	安藤家主屋	農	1208	I H-F P-t	貫 床 天井板 根太 母屋	上屋梁 桁 小屋梁		土台 大引			

G 東海地方

県	建造物名	別	時代	組合配列	ヒノキ・ヒバ J・J'	ス T	マツ・カラマツ P・P'	ケ ヤ Z	ク F	ソ H	その他 E
静	新井関面番所	住	1856	I T-P-t	柱 敷鴨居 長押	隅木 垂木 茅負 天井廻 全部材	桁 梁 棟木 大引	土台			
静	新井関同心控	住	1856	U T			部材大半	四天柱			
静	油山寺三重塔	堂	1611	A P-Z-p			台輪 小屋材				
愛	東観音多宝塔	堂	1528	I E-J-p	組物 桁 天井						
愛	性海寺多宝塔	堂	1370*	U J	全部材						
愛	密蔵院多宝塔	堂	1550*	I J-Z-	部材大半						
静	宝林寺佛殿	堂	1667	C J-H T-p	柱 壁板 組物 天井	天井板 裏板	側柱 頭貫 敷梁 束踏 梁 小屋材	四天柱		桁 組物 虹梁 軒廻	クス:2 3重斗 カヅラ:柱貫 クス:組物
三	専修寺如来堂	堂	1748	C Z-P H-p			床板 敷鴨居 梁 小屋材	柱 組物 縁廻			クス: 組物前包支外
愛	性海寺本堂	堂	1648	D J- -p	化粧材全部		野物材全部				
愛	高田寺本堂	堂	1370*	I J-Z P-p	柱 貫 組物 軒廻	桁 虹梁 隅木 梁 小屋	野物材全部 桁 虹梁 隅木 梁 小屋	大斗			
静	宝林寺方丈	方	1716	A P-H T E-p	柱	化粧材大半 野物材	化粧材大半 野物材			柱	クス:柱
愛	曼陀羅寺書院	方	1667	D J- -p	化粧材全部	梁 小屋組 床下材					

愛	龍泉寺仁王門	堂	1607	C J-P Z-p	一階軸部 組物 軒	部材大半	羽目 裏板	二階軸部 組物	蹴放 方立 唐居 敷	斗 隅虹梁尾垂 柱 地覆 貫	土台一部	柱一部	部材大半 長押 貫 敷鴨居 桁 肘木 全部材	クス:斗彫物 ツキ:柱虹梁隅
愛	伊賀八幡楼門	殿	1636	I J-Z-t	部材大半			梁 桁	柱 斗隅虹梁尾垂					
静	油山寺山門	城	1659	A P-Z-p	部材大半			梁 桔木	柱 地覆 貫					
愛	犬山城天守	城	1560*	A J-P-j	部材大半			土台 柱一部 唐破風	柱 地覆 貫					
静	麓山神社本殿	殿	1825	I H-Z-p h	天井 縁板建具			梁 桔木 小屋材						
静	神部浅間本殿	殿	1813	I H-Z-h	建具			梁 小屋材						
静	神部浅間拜殿	殿	1814	I H-Z-p h	建具			梁 小屋材						
静	麓山神社拜殿	殿	1825	I H-Z-p h	建具			梁 小屋材						
静	少彦名本殿	殿	1851	I H-Z T-p	建具			梁 小屋材						
静	麓山神社透屏	殿	1825	UH	全部材									
愛	万徳寺鎮守堂	殿	1530	U J	全部材									
静	黒田家長屋門	農	1760*	A P-E-p				貫 梁 敷鴨居 貫 梁 差物 鴨居	柱 敷居大引					シイ:柱 榎マダラ シイ:母屋
静	友田家住宅	農	1720*	A P-F-p				柱一部						
静	大鐘家長屋門	農	1781	A P-Z-p				下見板						
静	大鐘家主屋	農	1730*	A P-Z F-p				下見板						
愛	服部家離座敷	農	1760*	A T-P-t				部材大半						
愛	服部家主屋	農	1653	C J'-E P-p	柱 差物 桁 サス			貫 梁 天井板 敷居 床板 梁 榎 根太	柱一部					サアラ:板類 大引
愛	服部家表門	農	1750*	C J-HP-p	土台 柱 サス			貫 梁 天井板						
愛	望月家住宅	農	1770*	C F-T P-p	土台 内部柱			桁 長押 床 敷鴨居 小屋材	大黒 大引					
三	町井家住宅	農	1744	UP				柱 桁 繫梁 足固						

H 近畿地方

県	建造物名	別	時代	組合配列	ヒノキ・ヒバ J・J'	ス T	ギ	マツ・カラマツ P・P'	ケ Z	ヤ Z	キ	ク F	リ H	ガ H	その他 E
奈	法隆寺大湯屋	堂	1596	C J-P-p	柱 貫 長押 差物 妻飾			桁 垂木 裏板 小屋組							
奈	般若寺経蔵	堂	1250*	D J- -f	部材大半			足固							

県	建造物名	別	時代	組合配列	ヒノキ・ヒバ J・J'	ス T	ギ P・P'	マツ・カラマツ P・P'	ケヤキ Z	ク F	ツ H	ガ H	その他 の E
和	金剛峯寺経藏	堂	1599	D J - - p	部材大半		梁						
奈	久米寺多宝塔	堂	1660*	A J - Z - - p	化粧材大半	床板 心柱	野物材	組物一部			二重柱		
兵	酒見寺多宝塔	堂	1662	C Z - J P - p	一重柱・天井廻		貫長押 通肘木 軒 小屋	組物一部 一二重柱 大斗					クス:組物 垂木
大	大威徳多宝塔	堂	1551	I P - Z - p	隅木 長押 心柱		通肘木 隅木 軒 小屋材	柱 大斗 隅木					
奈	興福寺三重塔	堂	1200*	U J	全部材		小屋材						
京	万福寺齊堂	堂	1668	A J - E - h p	化粧材大半	天井板					小屋束貫		チーク:四天柱
和	法音寺本堂	堂	1457	A J - E - j	部材大半								クス:組物
和	薬王寺観音堂	堂	1348*	A J - E - p	化粧材大半	野地	繫梁 小屋材						クス・シイ:組物
滋	園城寺灌頂堂	堂	1598*	A J - P - p	化粧材大半	野地 小屋束 母屋	桁 差棟 小屋材						
和	地藏峯寺本堂	堂	1380*	A J - P - t	化粧材大半	野地	大斗 方斗 野物材	大斗					
奈	律学院本堂	堂	1627	A J - Z P - p	化粧材大半	裏板 野地	裏板 小屋材						
滋	長久寺本堂	堂	1629*	A P - J - p	柱一部 縁高欄		部材大半						モミ:部材大半
奈	大峰山寺本堂	堂	1703	C E - J - e	床板 地覆 足固		大引				野地 屋根板		カヤ:柱 隅木
兵	円教寺金剛堂	堂	1544	C J - E F - p	柱頭貫 長押板		桔木 小屋材						クス:組物
兵	本興寺開山堂	堂	1560	C J - E H - p	柱 桁 組物	桔木	桔木 小屋材	柱			柱 隅木 裏板		
兵	彌勒寺本堂	堂	1557	C J - H Z - p	庇柱 組物 桁 軒廻		小屋材	組物					
滋	桑実寺本堂	堂	1370	C I - P - t	柱貫 虹梁 組物 桁 垂木 長押	小屋材	柱 貫 虹梁						
和	道成寺本堂	堂	1357*	C I - E P - p	虹梁 大斗 鬼斗	入側柱 間斗 足固	虹梁 通肘木	柱 隅肘木 虹梁					
奈	円証寺本堂	堂	1552	C J - P Z - p		貫 肘木 軒廻 床廻	向拜組物						クス:柱 梁 斗 肘木
大	天王寺六時堂	堂	1623	C J - P Z - p	柱 長押 縁 地覆		台輪 床板 敷鴨居	内陣組物					
奈	宝幢寺本堂	堂	1385*	C J - Z - p	軸部 通肘木 垂木		垂木掛 棟束 小屋束	柱 斗 肘木					
和	利生護国本堂	堂	1385*	C P - E - p	床板 天井板		化粧材大半	柱					カヤ:柱 隅木 縁

県	建造物名	別	時代	組合配列	ヒノキ・ヒバ J・J'	ス T	ギ	マツ・カラマツ P・P'	ケ Z	ク F	ソ H	そ の 他 E
奈	金峰山寺金堂	堂	1588	I T-Z-p	軒廻 戸口廻	側柱 貫床板 軒廻	床板	軒廻 虹梁 小屋材 足固	隅柱 虹梁 組物			
奈	室生寺御影堂	堂	1360*	I Z-J T-t	軒廻 戸口廻	長押 板類 床下材		礎盤 柱 斗肘木				
奈	興福寺北円堂	堂	1180	UJ	全部材			部材一部				
兵	如意寺彌陀堂	堂	1200*	UJ	全部材							
和	長保寺本堂	堂	1311	I J-Z-p	部材大半							
京	瑞峯院本堂	方	1555*	D J- -p	化粧材全部							サワラ:天井板
京	弧蓬庵本堂	方	1797	AH-J-p	縁板 仏間床板							
京	万福寺西方丈	方	1661	AH-T-p	柱 長押 軒廻 縁	天井板						
京	大仙院書院	方	1614	A J-E P-p	柱 長押 軒廻 縁	野地						
京	慈照寺東求堂	方	1486	A J-T-p	化粧材大半	根太						サワラ:天井板
京	曼殊院本堂	方	1656	A P-H T-p		床板一部						
京	竜吟庵庫裏	方	1685*	CH-J P-p	柱 肘木 貫 桁							
滋	大通寺客室	方	1755	CH-P H-p		鴨居 天井廻 野地						
奈	岡寺書院	方	1644	C J-H P-p	柱 長押 敷鴨居	桁 天井板 小屋東						
滋	大津別院本堂	方	1650	C J-P H-p	軸部大半	来迎柱 天井廻						
滋	大洋別院書院	方	1670	C J-P T-p	軸部大半	垂木 縁板 軒廻 天井板						
奈	正暦寺客殿	方	1681	C J-P Z-p	柱 貫 桁 長押 敷鴨居 肘木	貫 足固						
兵	本興寺方丈	方	1617	D J- -p t	化粧材全部	小屋材						
京	聚光院本堂	方	1566*	D J- -e p	化粧材全部	野垂木						
京	黄梅院本堂	方	1588	D J- -p	化粧材全部							カシ:小屋東
京	退蔵院本堂	方	1602	D J- -p	化粧材全部	野垂木						
京	衡梅院本堂	方	1604	D J- -p	化粧全 小屋材							サワラ: 室中天井板 サワラ:天井板

大京	四天王寺方丈	方	1623	D J - - p	化粧材全部	野物材全部	野物材全部	サワラ:天井板
京	天球院本堂	方	1635*	D J - - p	化粧材全部	梁 小屋組	梁 壁力板	カシ:部材大半
京	興臨院本堂	方	1540*	D J - - p	化粧材全部	小屋根材	差物 梁 貫 小屋根材	シイ:垂木 ツキ:柱
兵	円教寺寿量院	方	1517*	I J - P - p	化粧材全部	肘木 巻斗 天井組子	控柱 垂木	モミ:板類 敷桁 束踏 桁跳
大	竜泉寺仁王門	堂	1275*	A E - P -	柱 梁 桁 組物	化粧材大半	化粧材大半	クス:組物 虹梁 妻飾
奈	新薬師寺東門	堂	1400*	A P - E - p	板類	部材大半	部材大半	クス:組物
大	久安寺楼門	堂	1400*	A P - E - p	肘木 壁板 彫物 通肘木	卷斗 長押 柱盤 裏板	卷斗 長押 柱盤 裏板	クス:組物 虹梁 妻飾
京	九品寺楼門	堂	1320:	A P - J - p	板類	部材大半	部材大半	クス:組物
和	高野山大門	堂	1707	C H - Z E P - h	肘木 壁板 彫物 通肘木	卷斗 長押 柱盤 裏板	卷斗 長押 柱盤 裏板	クス:組物 虹梁 妻飾
和	根来寺大門	堂	1845	C P - E J - p	柱 台輪 貫 高欄	貫 通肘木 軒廻 尾垂木	貫 通肘木 軒廻 尾垂木	クス:組物
和	護國院楼門	堂	1509	I H - E - p	柱 台輪 貫 高欄	支輪 桁 隅木 小屋根材	支輪 桁 隅木 小屋根材	クス:組物
奈	岡寺仁王門	堂	1612	I J - Z - p	腰貫 虹梁 長押 通肘木 冠木	土居 梁 小屋根材	土居 梁 小屋根材	カシ:頭貫 桔木 クス:隅梁
京	大徳寺山門	堂	1589	I P - Z ' - p	柱 方立 龕座	貫 台輪 組物 軒廻	貫 台輪 組物 軒廻	カシ:頭貫 桔木 クス:隅梁
兵	太山寺仁王門	堂	1400*	U P	柱 方立 龕座	貫 台輪 組物 軒廻	貫 台輪 組物 軒廻	カシ:頭貫 桔木 クス:隅梁
大	葛井寺四脚門	堂	1601	U P	柱 方立 龕座	貫 台輪 組物 軒廻	貫 台輪 組物 軒廻	カシ:頭貫 桔木 クス:隅梁
滋	豊満社四脚門	殿	1330*	I T - Z - t	柱 貫 長押 ヒエン	組物 梁 垂木 小屋根材	組物 梁 垂木 小屋根材	クス:斗 礎盤 シイ:地垂木
和	広八幡楼門	殿	1475	C J - E P - p	柱 貫 長押 ヒエン	組物 梁 垂木 小屋根材	組物 梁 垂木 小屋根材	クス:斗 礎盤 シイ:地垂木
奈	吉野水分楼門	殿	1605	D J - - p	化粧材全部	野物材全部	野物材全部	クス:斗 礎盤 シイ:地垂木
滋	兵主神社楼門	殿	1550	I P - Z -	柱	隅柱 親柱 虹梁 軒廻	隅虹梁 大斗 梓肘木	クス:斗 礎盤 シイ:地垂木
滋	新宮神社表門	殿	1485	I P - Z - p	柱	柱 平組物 虹梁 通肘木	柱 大斗 隅組物	クス:斗 礎盤 シイ:地垂木
和	法蔵寺鐘楼	堂	1450*	C P - H J - p	頭貫 斗 高欄	頭貫 斗 高欄	頭貫 斗 高欄	クス:柱 組物 軒 サクラ:カシ 野物材
滋	石山寺鐘楼	堂	1340*	D J - - e	化粧材全部	化粧材全部	化粧材全部	クス:柱 組物 軒 サクラ:カシ 野物材
奈	東大寺鐘楼	堂	1210*	D J - - p	化粧材全部	化粧材全部	化粧材全部	クス:柱 組物 軒 サクラ:カシ 野物材

県	建造物名	別	時代	組合配列	ヒノキ・ヒバ J・J'	ス T	マツ・カラマツ IP・P'	ケ ヤ Z	ク F	ツ H	そ の 他 E
大	大阪城一番櫓	城	1628	CH-J-h	貫 敷鴨居 壁板			羽日		桁 隅木	サクラ:羽目 クス:部材大半
和	十三神社丹生殿	殿	1580*	AE-PZ-p	向拝桁 破風	壁板	繫虹梁 破風	柱			クス:部材大半
和	十三神社八幡殿	殿	1580*	AE-Z-p	向拝桁		繫虹梁 破風	柱			クス:部材大半
和	十三神社本殿	殿	1580*	AJ-Z-p	貫 虹梁 破風 軒廻 桁			柱 向拝虹梁 裏甲			クス:身舎柱 センダン*大斗
和	宝来山神社4	殿	1614	AJ-E-j	部材大半		裏板 梁 土居	柱一部			
滋	白山神社拝殿	殿	1436*	AJ-P-j	部材大半		縁廻 小屋材	サス台			
滋	白髭神社本殿	殿	1603	AJ-PT-p	化粧材大半	裏板					
滋	小槻大社本殿	殿	1519	AJ-T-j	部材大半	裏板 壁板 天非板					
和	山王院高野社	殿	1522	AJ-T-j	部材大半	裏板 壁板 縁板					
和	山王院丹生社	殿	1522	AJ-T-j	部材大半	裏板 壁板 縁板					
和	山王院総社	殿	1522	TJ	全部材						
奈	添御県坐本殿	殿	1383	AJ-T-p	化粧材大半	壁板 天井板 野地	小屋材				
大	八坂神社本殿	殿	1610	AJ-T-p	化粧材大半	天井板	野物材全部				
滋	大行社本殿	殿	1447	AJ-Z-	柱 組物軒 壁板			内陣柱 大斗			
滋	生和神社本殿	殿	1380*	AJ-Z-p	部材大半	裏板 野垂木	小屋材	向拝柱 貫			
滋	高鴨神社本殿	殿	1543*	AJ-Z-p	軸部 軒廻 造作		小屋材	組物			
兵	天津神社本殿	殿	1492	AP-J-p	頭貫		頭貫以外全部				
兵	住吉本殿(妙)	殿	1493	CE-J'-t	木階 長押 頭貫	野棟木					マキ:軸部 組物
和	三船神社本殿	殿	1591	CP-JT-p	向拝柱・貫 長押	腰貫 妻梁 根太 棟木	壁板 桁 縁 梁	組物			クス: 軸部敷居木階
和	三船神社高野	殿	1599	CE-J-j	組物 軒廻 小屋材	床板 天井板	母屋 野垂木				クス:軸部 梁 破風
和	三船神社丹生	殿	1599	CP-J-j	組物 軒廻 小屋材	床板 天井板 根太	母屋 野垂木				クス:軸部 梁 破風
兵	住吉本殿三田	殿	1365*	CJ-P-p	組物 桁 長押 垂木	天井板	妻梁 桁 壁板 天井竿			裏板	
兵	戸隠神社本殿	殿	1524	CJ-PT-p	軸部 組物 桁 軒廻	壁板 裏板 天井板	垂木 破風	向拝柱			

県	建造物名	別	時代	組合配列	ヒノキ・ヒバ J・J	ス T	ギ T	マツ・カラマツ P・P'	ケ Z	ク F	ツ H	ガ H	そ の 他 E
奈	音村家主屋	町	1680*	CH-J T-p	柱 敷居 地覆	入側桁 敷居 天井板	母屋 棟木 敷桁 梁	桁 母屋 棟木 敷桁 梁			桁 差物 敷居	桁 差物 敷居	ハズサ:敷居
滋	大角家主屋	町	1690*	CH-P T J-p	破風 大引 戸袋	天井板 天井竿・板	床板 一筋 床下材 梁組	床板 一筋 床下材 梁組			軸部大半	軸部大半	
大	杉山家住宅	町	1710*	CH-P T-p		床板 裏板 天井板	梁 中引 母屋 棟木	梁 中引 母屋 棟木	座敷縁板		柱 大黒 桁 貫	柱 大黒 桁 貫	
奈	白井家住宅	町	1690*	CH-P T-p	土台	東 天井板 裏板 梁 サス	差物 桁 壁貫	差物 桁 壁貫			柱 敷鴨居	柱 敷鴨居	
滋	大角家座敷部	町	1700*	CH-Z I T-p	軒廻 床 縁板 書院	長押 裏板 天井板 竿	差物 敷鴨居 床下材	差物 敷鴨居 床下材	式台 違棚 トコ構		軸部大半	軸部大半	
奈	今西家住宅	町	1650	C J-P E-p	柱 庇 破風		床板 梁 小屋材	床板 梁 小屋材	大黒				モミ:差物 桁 天井
奈	河合家主屋	町	1775*	C P-P H-p	柱 壁貫	庇垂木 小屋貫	桁 梁 床板 敷居	桁 梁 床板 敷居			差物 梁 鴨居	差物 梁 鴨居	モミ:棟木 母屋
滋	西川家住宅	町	1706	C J-P H T-p	本柱 貫 桁 垂木	本柱 長押 裏板	側差 天井竿 梁 小屋材	側差 天井竿 梁 小屋材			敷居 垂木床	敷居 垂木床	シオジ:トコ柱
奈	豊田家住宅	町	1662	C J-P Z-e	柱 縁板	柱 縁板	差物 梁 小屋材	差物 梁 小屋材	大黒		柱 一部	柱 一部	ツバキ:大引 モミ:小屋
奈	河合家納屋	町	1830*	C J-P T-p	柱	桁 棟木 床板 垂木 梁	差物 梁 小屋材	差物 梁 小屋材			差物 鴨居	差物 鴨居	
奈	中橋家住宅	町	1760*	C P-H J-p	柱 差物一部	床板 天井板 小屋貫	差物 桁 敷鴨居 敷桁	差物 桁 敷鴨居 敷桁			差物 鴨居 天井	差物 鴨居	
京	滝澤家住宅	町	1760	C T-J-p	柱 土台	表柱 鴨居 天井縁・竿	敷居 梁 小屋材	敷居 梁 小屋材					
奈	中家持仏堂	堂	1734	C J-H P-p	柱 貫 肘木 敷居	裏板 天井板	桁 隅木 垂木 小屋材	桁 隅木 垂木 小屋材		柱 貫 根太 土台 柱	桁 長押 鴨居	桁 長押 鴨居	
兵	友井家住宅	農	1700*	A F-P-p		母屋 棟木	梁 小屋材 床板	梁 小屋材 床板					
奈	片岡家表門	農	1832	C F-P-t	樞 足固 梁 敷桁 小屋	樞 足固 梁 敷桁 小屋	貫 梁 敷桁 妻梁	貫 梁 敷桁 妻梁					
奈	岩本家住宅	農	1850*	C F-P-t			差物 梁 束踏	差物 梁 束踏					
兵	古井家住宅	農	1580*	CH-F-h	柱 床板 床束	床板 天井板	化粧野物 20%	化粧野物 20%			部材約5割	部材約5割	
和	鈴木家住宅	農	1785	CH-J E-p			桁 床板 梁 床下材	桁 床板 梁 床下材			柱 敷鴨居 長押 梁	柱 敷鴨居 長押 梁	サクラ:敷鴨居 シイ:柱
大	高橋家住宅	農	1660*	CH-P-p			桁 敷鴨居 梁 棟木	桁 敷鴨居 梁 棟木			柱 貫 差物 垂木 天井材	柱 貫 差物 垂木 天井材	

大	北田家北蔵	農	1785	CH-P-p t	二階梁	桁 棟木 貫 母屋 床板 上屋 桁 垂木	牛 梁 裏板 桁 隅木 垂木 差物 軒 小 梁 小 屋 材 梁 一部 床板 根太 小 屋 材 根太 牛 梁 棟木 柱 差物 壁板 柱 梁 柱 差物 敷 鴨 居 床板 桁 本 柱 差物 桁 母 屋 梁 柱 マ ヅ サ 床板 鴨 居 梁 上 間 柱 桁 貫 差物 梁 柱 貫 鴨 居 梁 部 材 大 半 桁 差物 敷 鴨 居 梁 胴 差 梁 中 引 大 黒 框 敷 鴨 居 梁 柱 桁 床板 敷 鴨 居 天 井 縁 階 床板 柱 差物 小 屋 材	側柱 柱 束 柱 差物 床下 柱 桁 長 押 鴨 居 天 井 部 材 大 半 柱 貫 長 押 差物 桁 裏板 柱	ハズサ:敷居 サワラ:敷居
奈	中家主屋	農	1659*	CH-P T-p	柱 差物	座敷 柱 裏板	トコ:書院廻	柱 束	
大	山本家住宅	農	1660*	CH-P T-p	鴨居	床板	縁板		
奈	中家新座敷	農	1773	CH-T-p		桁 垂木 床板 裏板 小 屋 材			
和	増田家主屋	農	1706	CH-J T-p	柱 一部	座敷 柱 裏板			
和	柳川家主屋	農	1807	CH-P T-t	七台 柱	床・天 井 板 床下・小 屋 材		土台	
大	北田家乾蔵	農	1722	C J-H-p	柱 出入口 大引	母屋 野 垂木			
京	石田家住宅	農	1650	C P-F-f				柱 床下 材	
奈	菊家住宅	農	1716*	C P-F T-p		柱		柱 大 引	
奈	藤田家住宅	農	1715*	C P-E H-p		垂木		土台	カシ:床材 ソウキ:サス
和	柳川家前蔵	農	1807	C P-H T-t		柱 下 見 大 引 根太		土台	
奈	片岡家主屋	農	1670	C P-F J-p	床上 柱			土間 柱 大 引	
和	谷山家住宅	漁	1749	C P-T J-p	柱 隅柱	柱 鴨 居 桁 床板 根太			柱 敷 鴨 居
大	降井家書院	農	1760*	C P-T-p		本 柱 桁 天 井 廻		土台 柱	
滋	宮地家住宅	農	1754	C P-Z J-p	座敷 柱・天 井 差物				
大	北田家表門	農	1843	C T-J Z-p	柱 敷 鴨 居 壁 貫	桁 床板 床下・小 屋 材	入口・本 柱		
大	北田家主屋	農	1708*	I H-P-p		壁 貫 天 井 板	鏡 柱 冠 木 出 梁		
京	桂離宮古書院	書	1616*	A P-T-p	トコ 框	トコ 柱 天 井 板	式 台		柱 差物 桁 長 押 鴨 居 床板
兵	シャープ住宅	洋		C P-T-p		二階 床板 管 柱 羽 目 板			トガサワラ:梁

I 中国 日本海沿岸

県	建造物名	別	時代	組合配列	ヒノキ・ヒバ J・J'	ス T	マツ・カラマツ P・P'	ケ ヤ Z	ク F	ツ H	そ の 他 E
鳥	仁風閣	洋	1907*	CT-P-p		柱筋違床板 下見床束	床下材 野地				
鳥	神魂貴布彌社	殿	1583	UP			全部材				
鳥	後藤家一番蔵	町	1747	AP-J-p	柱一部		部材大半	土台			サワラ:柱一部
鳥	後藤家主屋	町	1714*	AP-J-p	柱		部材大半	土台			
鳥	矢部家住宅	農	1650*	CP-F-p			牛梁 梁 桁 棟木 敷鴨居	柱 小屋材			
鳥	道面家住宅	農	1820*	IP-F-p			梁 桁 マグサ 小屋材	土台 柱 大引			

J 中国 瀬戸内海沿岸

県	建造物名	別	時代	組合配列	ヒノキ・ヒバ J・J'	ス T	マツ・カラマツ P・P'	ケ ヤ Z	ク F	ツ H	そ の 他 E
岡	宝福寺三重塔	堂	1376	AJ-H-p	腰貫 頭貫 台輪		小屋材 軒廻 組物			二重柱 柱盤	
岡	真光寺三重塔	堂	1480*	CE-J P-p	柱 桁 垂木 貫 台輪		頭貫 足固			二重柱	イブキ: 一重柱組物
岡	遍照院三重塔	堂	1416	CJ-P E-p	柱 台輪 通肘木		頭貫 足固 三重柱			二・三重柱	クス:来迎・ 一三重柱
広	明王院五重塔	堂	1348	IJ-Z-p	四五重柱 台輪 貫 長押	裏板	二三重柱 組物 桁 隅木	一重柱 三重隅柱			タブ:心柱
岡	長福寺三重塔	堂	1285	UP			全部材				イヌマキ: 柱大半
山	功山寺仏殿	堂	1320	AJ-E-p	柱以外全部						ムク・センダン
岡	真光寺本堂	堂	1516	AP-E-p			95%				カシワ・カラキ: 側柱 桁 組物
岡	本蓮寺本堂	堂	1492	CE-J H-	長押 天井 軒廻	天井板	野物材			貫 床板 根大	
広	明王院本堂	堂	1321	CH-J-p	組物 垂木 桁 床・壁板 大梁		内陣桁			柱 各段貫 虹梁	
広	浄土寺本堂	堂	1327	DJ- -p	化粧材全部 梁		小屋束			棟束	

広	浄土寺彌陀堂	堂	1345	D J - - P	化粧全梁棟木束	野垂木	繫梁 小屋材	大引	根太		
広	西郷寺本堂	堂	1353	D J - - P	化粧全 野棟木		梁 小屋束	大引	根太		
広	門通寺本堂	堂	1545*	U P	柱 頭貫 垂木		全部材		根太		
広	西国寺本堂	堂	1386	I J - Z - P	長押 床板 桁		飛貫 足固 敷梁	大斗 卷斗	根太		
広	浄土寺山門	堂	1450*	C P - H J - h	柱 長押 棟木		本柱 虹梁 組物		肘木	野物材	
広	宗光寺山門	堂	1570*	C P - J Z - P	桁 垂木 組物		貫 棟木 野物				カシ:柱
岡	本蓮寺中門	堂	1500*	C Z - P J - P	男梁 垂木	裏板	桁 棟木 冠木	柱 女梁 大斗			
広	西郷寺山門	堂	1395*	D J - - t	化粧材全部	野物材全部	台輪 虹梁 桁	柱 貫 海老虹梁			クス:組物
広	不動院楼門	堂	1594	I P - Z - P	通肘木 垂木		尾垂木 隅木	組物 妻飾			センダン:柱
山	洞春寺山門	堂	1430*	U J	全部材		全部材	全部材			
山	常念寺表門	堂	1633	U Z			部材大半	トコ框 棚板			
山	目加田家住宅	住	1810*	A P - Z P			全部材				
山	厚狭毛利長屋	住	1856	U P			全部材				
岡	高梁城二重櫓	城	1683	A P - E - P			全部材				モミ:壁板
岡	高梁城天守	城	1683	A P - E - P			全部材				モミ:壁板
岡	岡山城月見櫓	城	1630*	I J - J - P	通し柱		部材大半				
岡	本蓮寺番神中	殿	1500*	A J - T - j	部材大半	裏板	腰貫 足固 妻	大斗			クス:斗
広	桂浜神社本殿	殿	1480	C J - P - P	柱 貫 長押	床板	小屋材				海老床板
岡	本蓮寺番神東	殿	1558	I J - Z - j	部材大半		貫 虹梁 桁 棟木				
広	竜山八幡本殿	殿	1558	C J - P - P	柱 海老虹梁		床下	大斗			
広	敵島千疊閣	殿	1587	I P - E - P	組物 敷鴨居		化粧材大半				クス:組物
山	古熊神社拝殿	殿	1665*	I P - Z - P	全部材		部材大半	斗 肘木	側柱		クス*斗 肘木
岡	本蓮寺番神西	殿	1500	U J			部材大半				
山	国森家住宅	町	1775*	A P - F - P			部材大半	下屋柱			
岡	高草家米倉	町	1841	A P - F - P			部材大半				サクラ:柱一部
岡	高草家門倉	町	1860	A P - F T - P	貫 床板一部		部材大半	土台 大引 敷居 柱一部			

県	建造物名	別	時代	組合配列	ヒノキ・ヒバ J・J'	ス T	ギ T	マツ・カラマツ P・P'	ケ Z	ヤ Z	ク F	リ F	ツ H	ガ H	その他 E
広	林家住宅主屋	町	1703	A P-P-P		柱 長押	天井廻	貫 桁 軒廻 床板 破風	柱						
山	菊屋家釜場	町	1880*	A P-T-P		柱 一部		部材大半							
山	菊屋家木蔵	町	1880*	A P-T-P		壁板 裏板		部材大半							
山	菊屋家金蔵	町	1825	C P-E-P	登梁 桁 垂木			土台 貫 梁 壁板 小屋根							
山	菊屋家主屋	町	1670*	C P-E T-P	柱	長押 束 柱		土台 柱 貫 差物 桁 梁							タブ:柱 貫 差物 敷桁 小屋材
岡	高草家中倉	町	1797*	C P-F-P				部材大半			柱 大引				
山	熊谷家主屋	町	1768	C P-J-P	上台区 二階梁	長押		部材大半			妻梁				ナラ・サクラ: 妻梁
山	菊屋家米蔵	町	1880*	A P-F-P				部材大半			土台 大引				
広	林家表門	町	1703*	I H-Z-P				全部材	大斗						部材大半
広	木原家住宅	町	1665	U P				天井廻 中引							
岡	林家表門	農	1786	U P				天井廻 繫梁	鏡柱						
岡	石井家裏門	町	1706	A P-F-P				貫 桁 母屋 小屋材	柱						桁
岡	前原家住宅	農	1760*	A P-F-P				部材大半			柱 框 床下材				
岡	林家衣装蔵	農	1785*	C P-F-P				桁 梁 母屋 マダササス			土台 柱 貫 床				
岡	林家米蔵	農	1780*	I P-F-P				二階柱 梁 棟木 母屋	棟持柱		土台 柱 床下				
岡	森江家住宅	農	1670*	U P							全部材				

K 四国地方

県	建造物名	別	時代	組合配列	ヒノキ・ヒバ J・J'	ス T	ギ T	マツ・カラマツ P・P'	ケ Z	ヤ Z	ク F	リ F	ツ H	ガ H	その他 E
香	金比羅大芝居	他	1835	A T-P-t		部材大半		床廻							

愛	豊島家主屋	農	1758	CP-T-p	座敷柱 垂木 木舞	側柱 大黒 梁 差物	下屋柱	座敷柱 桁	モミ:天井 シオジ:トコ板 サクラ 敷鴨居
徳	小采家住宅	農	1840*	IT-P-t	貫 桁 差物 床板 敷鴨居	上屋梁 上屋柱 中引 梁	側柱 大引	軸部 垂木 床板	
徳	福永家主屋	農	1828	AH-T-p	桁 根太 天井 小屋材	梁		梁 差物 中地	
高	山中家住宅	農	1770*	CJ-T-P	梁 差物 長押 桁 鴨居	梁			
徳	長岡家住宅	農	1735	UP	柱 繫梁 敷居	全部材			

L 九州地方

県	建造物名	別	時代	組合配列	ヒノキ・ヒバ J・J'	ス T	ギ T	マツ・カラマツ P・P'	ケ ヤ Z	ク F	リ H	その他 E
長	崇福寺護法堂	堂	1731	UT'		全部材 (コウヨウサン)						
福	福岡城多聞櫓	城	1853	IT-P-t	土台	構成材大半	柱 梁					
福	宗像辺津宮	殿	1578	AE-T-e		板類 天井廻	野物材					クス:部材大半
福	高良大社社殿	殿	1661	AZ-H-p			長押 天井竿					カヤ: 主要構成材
大	大野老松天満	殿	1488*	CE-T-P-t		貫 垂木 壁 床 裏板						
鹿	八幡神社本殿	殿	1559	UH			部材大半					
宮	巨田神社本殿	殿	1760*	AP-T-p	全部材		差物 マグサ					
大	矢羽田家住宅	農	1760*	AP-T-p		柱						
宮	藤田家住宅	農	1787*	AT-P-t		柱 敷居 中地梁 サス						
熊	境家住宅	農	1830	CP-E-p			梁 差物 マガサ 小屋材					
鹿	二階堂なかえ	農	1889	CT-E-p		柱 貫 差物 鴨居 小屋材	上屋梁 中引 根太					シイ:柱 床下材
鹿	二階堂おもて	農	1810	CT-E-t	貫 差物 桁 梁 鴨居 床板	落掛 廻縁 竿縁						タブ:敷居 シイ:大引 マキ:柱 梁 シイ:敷居
福	平川家主屋	農	1800*	CT-P-p		柱 桁 天井 根太 棟木	貫 梁 差物 足面 サス					差物

県	建造物名	別	時代	組合配列	ヒノキ・ヒバ J・J'	ス T	ギ T	マツ・カラマツ P・P'	ケ ヤ キ Z	ク F	リ F	ツ H	ガ H	そ の 他 E
福	平川家納屋	農	1880*	C T-P-t		部材大半	部材大半	梁 マツグサ		框				シイ:床下材 サクラ:框
宮	黒木家なかえ	農	1800*	C T-P-t		柱長押 桁 鴨居 壁板	差物 上屋 梁 中引 床板							ヤナギ:柱 シイ:貫床材
宮	黒木家おもて	農	1836	C T-P-t		柱 鴨居 長押 桁 壁板	差物 敷物 梁 中引 床板							
大	後藤家住宅	農	1770*	C T-P-F-t		柱 桁 貫 床板 根太	梁 胴差 敷物 鴨居 梁			土台大引				
長	本田家住宅	農	1760*	I E-P-e		貫 桁	差物 敷物 鴨居 梁 桁							シイ:部材大半
大	神尾家住宅	農	1771	I T-P-t		柱 貫 サス	梁 桁			土台 柱				
福	教山家住宅	農	1842	I P-F-t		根太 大引	柱 貫 桁 梁 差物 敷物 鴨居			土台				
佐	吉村家住宅	農	1789	I P-P-p		柱 貫 敷物 大引 根太	桁 梁 差物 棟木 框 サス							
佐	山口家住宅	農	1840*	I T-P-t		部材大半	梁							
沖	銘苅家住宅	農	1906	A J'-T-t		壁 天井 床板	部材大半							イジュ: 柱 桁 胴差
佐	土井家住宅	町	1830	C T-P-E-t		柱 貫 垂木 縁	桁 差物 敷物 鴨居 棟木							クス:柱 床 腕 カシ:一筋
長	オルト宅主屋	洋	1867	D T- -p		大引 野地	部材大半							タブ:建具
長	オルト付属屋	洋	1867	I T-P-t		柱 小屋材 床板	貫 桁 梁 野垂木							

Wood Species and the Positions where They Are Used
in Japanese Historical Houses from the
Middle to Modern Ages

Satoshi IHARA

Most wooden buildings from the seventh to eleventh centuries are made of *hinoki* (*Chamaecyparis obtusa* Endl.), because of its strength, workability and fine surface. However, many more species of wood have been used for buildings since the twelfth century, because of the shortage of wood in the mountainside and expanded demand for building new temples and shrines. The fact that wood timbers were collected from places hundreds of kilometers away at the end of the twelfth century for the re-building of Todaiji, the biggest wooden building in the world, explains the shortage of *hinoki* in the area around the temple due to the first construction of the temple.

The author has examined 580 examples of wooden buildings from the twelfth to the nineteenth centuries in order to understand the relation between wood species and the positions in the buildings where they are used. The results of the examination are as follows :

1) *Hinoki* (*Chamaecyparis obtusa* Endl.) and *hida* (*Thujopsis dolabrata* Sieb. et Zucc and its var. *hondai* Makino) are found in many buildings, especially those dating to the ancient times and particularly in the areas around historical Kyoto which had been a cultural as well as geographical center. Other examples of using these species are often found in areas where these trees grow in abundance. That is, many examples of buildings using *hinoki* are found in the middle part of Honshu, the Japanese main island; buildings with *hiba* are often found in the northern part of Honshu, i. e. Aomori prefecture.

2) In the Chugoku district, western part of Honshu, where good quality pine (*Pinus densiflora* sieb.) wood is produced, there are remarkably many buildings using pine wood as members.

3) Buildings mainly using *Sugi* (*Cryptomeria japonica* D. Don) are concentrated on the north coastal side of Honshu facing the Japan Sea, where *Sugi* has been produced for a long period.

4) *Keyaki* (*Zelkova serrata* Makino) has been used positively for buildings since the eighteenth century, often at noticeable positions like the main member, entrance, and reliefs. It is clearly supposed from the examinations that *Keyaki* is used not only for its strength but also for its grain.

5) Besides the above mentioned main wood species, other types of auxiliary wood have been used for buildings in a limited area.

Kusu (*Cinnamomum camphora* Sieb.) is used on the coastal side of Setonaikai,

the Inland Sea, and the coastal side of the Pacific Ocean on the eastern part of Honshu. *Momi* (*Abies firma* Sieb.) is found in the Kinki area, middle west part of Honshu, and th mountain side of Chubu district, the middle part of Honshu. *Buna* (*Fagus crenata* Blume) is used on the coastal side facing the Japan Sea on the eastern of Honshu.

A given species of wood is principally selected for its strength and for its grain pattern. But it was also observed that even in the same species a certain wood is selected for its mechanical characteristics in order to obtain better stability for buildings. For example, resinous part which is hard and tough is used for the main loading member.

The data in this report are extracted from published technical reports on the conservation of wooden buildings and from suggestions made by many conservators working at reconstruction sites.